

中央新聞別

(明治二十六年三月廿五日通信省認可)
(明治廿九年二月十四日)

早稲田大学図書館

文書27

D 43

朝鮮變亂の續報

昨日逸早く號外を以て報道せる朝鮮大變亂に就て昨夜來接手せる續報左の如し

● 兪吉濬、趙義淵の急
日本公使館に遁る

(十二日午後京城特派員渡邊宇山特發)

新政府が嚴重に探索せる改革黨領袖軍部大臣趙義淵内部大臣兪吉濬は變亂の當日辛うして我日本公使館に遁れて免かるゝを得たり

露國水兵の行動

(十二日京城特派員村松夢洲特發)
(十三日午後三時三十分釜山繼電)

昨日露國士官五名水兵百二十名大砲一門軍馬五十頭を率ゐる武裝して京城に入り、十一日拂曉暴徒に加はり王宮に闖入し朝鮮國警務官を捕縛し國王及二三の大臣を自國公使館に連れ行けり内部大臣兪吉濬

は行方知れず

● 英米水兵と

日本守備隊

(十一日京城特派員渡邊宇山特發)
(十三日午後二時三十分釜山繼電)

英國水兵十五名米國水兵十名自國公使館保護の爲め京城に入れり日本守備隊は今回の變に關係せず居留民は無事なり

● 義和宮殿下と

李峻鎔氏

目下我國に在る義和宮殿下及び李峻鎔氏は或は刺客の難あらんとを慮かり専ら警戒し居れりといふ

日火が
七八九十

發行所 東京市京橋區銀座四丁目九番地
發行兼編輯人 中央新聞社
印刷 八田公忠
川口慶太郎

片山道平
廿九年三月

二日

一日

三日

四日 伊豆

五日

六日 休

七日

八日

十日

九日

○七 伊豆
○八 伊豆
○九 伊豆
○十 伊豆

(明治二十五年三月十一日遞信省認可)

時事新報號外

明治二十九年二月十五日

○帝國議會の停會

衆議院は来る十七日より開會の豫定なりしが今回の朝鮮事變にて俄かに開會する事となり本日例刻に開會して先づ例の如く諸般の報告あり角田眞平氏辭職の件を可決して高木正年氏の電氣鐵道の件に關する質問演説、依田道長氏の府縣制及び郡制の施行に關する質問演説ありし後工藤行幹氏は朝鮮事變につき諸新聞紙に記載する所を演べて政府の對韓政略を聽きたしと述べて降壇し次に竹内正志氏登壇して東半嶋還附事件及び對韓政略につき演説し未だ半に及らざるに議長は竹内氏の演説を中止し詔勅下れるを報告して之を奉讀せり

詔勅

朕帝國憲法第七條に依り二月十五日より二十四日迄十日間帝國議會の停會を命ず

時に二時三十分なりし詳細は明日の紙上に記すべし

發行兼編輯人 光吉 荒次郎 印刷人 池田 常太郎
發行所 東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地 時事新報社

百物考紀
百物考紀
百物考紀

水考
水考
水考

木考
木考
木考

石考
石考
石考

土考
土考
土考

金考
金考
金考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考

雜考
雜考
雜考